

平成25年度香取市小中学校「標準学力調査」結果概要

香取市教育委員会

1 調査目的

各小中学校が、一人一人の子どもたちに「確かな学力」を身に付けさせるために、学習指導上の課題を明確にして、今後の指導の工夫・改善に活用する。

2 調査内容

(1) 調査対象

小学校5年生

(2) 実施教科

小学校…国語・社会・算数・理科

(3) 調査実施日

平成26年2月5日(水)

3 調査方法

学習指導要領に示された内容のうち、ペーパーテストで調査を行うことが適当なものについて、学力調査を実施した。

4 調査結果、分析及び改善策

【小学校 第5学年】

[調査結果]

平均正答率(%)

教科	目標値	香取市平均	目標値との差	全国平均
国語	65.7	67.3	+1.6	69.1
社会	62.8	66.6	+3.8	63.8
算数	65.5	66.2	+0.7	67.2
理科	69.7	74.8	+5.1	71.6

※目標値…正答できることを期待した児童の割合を示したもの

[全体的な傾向]

社会と理科は、市平均正答率が目標値と全国平均をともに上回った。国語と算数は、市平均正答率が目標値を上回ったが、全国平均を下回った。全体として、学習の実現状況はおおむね良好である。

[国語科における主な課題（○）及び改善例（・）]

- 【言葉の学習】言葉の学習では、連用修飾語の理解に課題が見られた。
 - ・どの言葉がどの言葉を詳しく説明しているのかという文の構造について理解することは、文章を書くときや、正しく内容を読み取るときにも必要である。視覚的にわかる言葉の関係の図を用いて、どの言葉がどの言葉にかかっているのか、文の構造を理解させることが大切である。また、簡単な文の空欄に、さまざまな修飾語を入れる練習を積ませることも有効である。
- 【物語の内ようを読み取る】物語の読み取りでは、登場人物の心情を読み取ったり、指示語の内容を読み取ったりすることに課題が見られた。
 - ・登場人物の心情を読み取るためには、設問の対象部分だけではなく、登場人物の置かれている状況や人間関係を押さえた上で、考えていくことが大切である。そのためには、文章全体をきちんと読むことを徹底して指導したい。ここでは、設問部分の前後にある父の発言をしっかりと押さえるようにしたい。
- 【作文】作文では、指定された長さで文章を書いたり、2段落構成で文章を書いたりすることに課題が見られた。
 - ・書くことの第一段階は、何について書くのか、目的をはっきりさせることである。記述に入る前に、自分は何について書くのか、文章の組み立てを考えさせたり、必要な材料を十分に集めさせたりすることが大切である。日頃から、自分の考えをわかりやすく効果的に書けるよう、「段落」の定義を正しく理解させた上で、200字程度で大事なことを押さえて書く経験を多く積ませることが必要である。

[社会科における主な課題（○）及び改善例（・）]

- 【世界の中の国土】日本の国土について理解することに課題が見られた。
 - ・ここでは、地図を想起しつつ解答することが必要である。解説する際にも是非、地図帳を活用したい。選択肢①については「東から西にかけて」、②については「六つの大きな島」、③については「赤道とオーストラリア大陸の間」、④については「沖ノ鳥島」「南鳥島」をそれぞれ確認していく。誤った表記については正しく書き直し、日本の国土の特色についての認識を深めていくことが大切である。
- 【日本の国土と人々の暮らし】日本の気候の特色について、地域を判断することに課題が見られた。
 - ・話の内容から、「夏と冬の気温の差が少ない」「雨が少ない」「夏になると、たびたび取水制限される」ことを、地域を判断する基準とするべきである。児童がこれらについての知識を有している場合には、比較的容易に考えさせることができるが、そうでない場合には、改めて気候区分とそれぞれの特色を明らかにした上で、考えさせるようにするとよい。
- 【日本の農業】カントリーエレベーターについて理解することに課題が見られた。
 - ・米づくりについては、映像資料や写真資料などを活用して、年間を通した米づくりの様子を実際のイメージと結び付けて理解させることが大切である。

[算数科における主な課題（○）及び改善例（・）]

- 【計算の復習】3けた×2けた=5けた（被乗数に空位あり）の計算に課題が見られた。
 - ・0のかけ算の答えは0になる。0になるから空位の計算を省略してもよいと考えている児童に対しては、計算手続きの単純な間違いであるので、個別に指導する必要がある。また、被乗数に空位があると、繰り上がりの数の計算がむしろ簡単になることを指摘しておきたい。
- 【小数のかけ算・わり算】小数の乗法でも分配法則が成り立つことへの理解や、問題の場面を理解し、小数の除法を使って、問題を解くことに課題が見られた。
 - ・計算式を解くとき、いきなり計算をする前に、98という数をほぼ100と見る、9.8という数をほぼ10と見るなど、数を多面的に見ることで、簡単に計算できるようになる。この見方を表したのが分配法則であることを指摘しておきたい。形式だけの法則を指導するのではなく、法則のよさがわかるように指導することが大切である。
 - ・小数の計算においては、計算技能だけではなく、計算の意味を理解させることが重要である。小数の乗法や除法を使って問題を解決する際には、式と答えだけでなく、その式の根拠を説明させる活動などを取り入れることが大切である。
- 【図形の角】2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求めることや、図を見て、五角形の内角の和を求める式を立式することに課題が見られた。
 - ・三角形については、まず3つの角の和が 180° 、直線の角が 180° 、直角の記号が 90° であることを確認させ、図形に書き込みながら角度を確かめる習慣を付ける指導が必要である。また、図や式から考えを読み取る活動や、答えを求める方法を説明する活動を取り入れて、授業を展開することが大切である。

[理科における主な課題（○）及び改善例（・）]

- 【天気の変化】雨量情報を自動計測するシステムを、「アメダス」とよぶことについての理解に課題が見られた。
 - ・教科書の「気象衛星の雲写真」や「アメダスの雨量情報」をもとに、それらから何が読み取れるか話し合わせ、雲の地域と雨の地域は、ほぼ一致していることに気付かせることが大切である。アメダスは、全国各地の雨量や風向・風速、気温などのデータを自動的に計測し、そのデータをまとめるシステムであることや、「アメダスの雨量情報」の資料で、雨の降っている地域と雨の強さを表していることを丁寧に説明するとよい。
- 【魚のたんじょう】図で表されている水の中の小さな生物が、「ゾウリムシ」であることへの理解に課題が見られた。
 - ・メダカの誕生と成長についての学習の中で、メダカなどの魚が食べている水の中の小さな生物を、実際に顕微鏡を使って観察させることにより、理解を深めさせたい。顕微鏡で、水の中の小さな生物を見つけることができない児童については、事前に、水中の小さな生物が確実に見られるプレパラートを教師が準備しておき、それを観察させることで、顕微鏡の視野の中で、どれくらいの大きさに見えるかの感覚を捉えさせるようにするとよい。